



20年来グローバル コミュニケーションズ エキスパート。元JAXAエグゼクティブ アドバイザー(広報・国際担当)、国立大学法人山口大学客員教授(国際関係+コミュニケーション論)、評論家・オピニオンリーダー。東京生まれ、英国育ち。講演、テレビ、執筆、政府委員など、マルチに活躍する中で、IRと都市開発のコンサル会社代表も務める。
<http://www.nishiuramidori.com>

連載 第5回

“国際派大和撫子”が伝える宇宙の開発現場

にうらみどりの

「宇宙の窓から」

イタリアと宇宙技術

読者の皆様はイタリアときく
と何を想像されるでしょうか？

おそらくフェラーリ、ルーチエ、レオナルド・ダ・ヴィンチ、リストは長くなるはず。ダ・ヴィンチ、このルネサンス期を代表する天才の名前は、米国所有ではありませんけれど、イタリアが建造したISS(国際宇宙ステーション)で活躍する多目的補給モジュールにも、その名を誇っています。

他にも、ほぼ同世紀に活躍した天文学者、ガリレオ・ガリレイ。日本では子どもから大人まで馴染みが深いのではないのでしょうか。そうした広い意味で宇宙との関係、歴史は長いイタリアですが、意外にもイタリア宇宙機関(Agenzia Spaziale Italiana, ASI)が宇宙活動を促進、調整、実施するために発足し



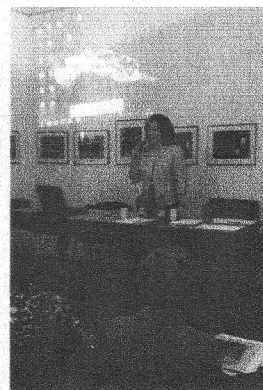
サジェッゼ総裁とは共通の友人も少なからず

たのは1988年なのです。

とはいえ、すでに60年代にはロシア(当時ソビエト連邦)、米国について、世界で三番目に独自で開発した衛星の打ち上げを成功させています。2009年にASI総裁に就任したエンリコ・サジェッゼ博士とは、今までも様々な国際宇宙会議や会食の場で交流してきましたが、今回はローマで宇宙談義に花を咲かせる機会に恵まれました。

3人のお孫さんがいらっしゃるとは思えない若さで、ダイナミックな行動力のサジェッゼ総裁は、有能な片腕、ガブリエラ・アリゴ国際部長と颯爽と現れました。

お互いの近況など軽い雑談のあと、サジェッゼ総裁は日本・イタリア両国の今後の共同研究開発などについてもエネルギーギッシュに語り始めました。この誌面では技術的な解説は控えますが、中でも、PRISMA(ハイパスペクトル・プロジェクト)や無人宇宙船の戦略的プロジェクトの重要性についても、大いに共鳴しました。そして両国が今後、産業界にお



ローマで講演する筆者

いても連携を越えた共同参画を進めていくことが相互競争発展に繋がるという話も伺いました。

筆者は、グローバル・コミュニケーションズのプロですから、テーマが宇宙であっても、日本が最大限に宇宙研究開発を発展させて、世界平和、環境問題、人類の豊かさを追求しながら災害から守ることに貢献しているかということとを、上手にアピールするお手伝いをするのも任務のひとつです。

そんな観点から、ローマにある、外交官養成・訓練所、イタリア国際研究機構(Societa Italia per L'Organizzazione Internazionale, SIOI)について「日本の宇宙外交とグローバル・コミュニケーションズ」という題目で講演をしてきました。一民間人として小さな行為ですが、成果は大きかった? と会場からの反応に明るい判断をしています!